



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2014年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)  
 : 益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
 : (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occ.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
 Cypress, CA 90630

石 叫 石

◎石叫 ■ 「南加キリスト教会連合百周年記念大会」  
 この4月6日にロサンゼルス合同教会において、南加キリスト教会連合創立百周年記念のお祝いがあった。日系人キリスト諸教界の一大金字塔である。同時に国際飢餓対策機構親善大使の森裕理さんがこの集会を盛り上げてくれた。百年を振り返ってのハイライトと云えば、それは何よりも一八八九年、サンフランシスコのメソジスト教会で起った霊的覚醒であろう。これは在米日系人社会のみならず、日本にも多大な影響を及ぼした。その歩みを辿ってみよう。  
 日本人が南加州へ定住するようになったのは一八八七年頃からで、当時のロサンゼルス日本人人口は三百を超えなかった。その頃、サンフランシスコの北米日系人社会で初めて創設された組織団体があった。それが三十五名からなる青年たちのクリスチャン・グループ「福音会」であった。後に紆余曲折を経て、MCハリスが彼らの指導者として遣わされることになったが、彼は領事、宣教師として札幌農学校の内村鑑三や新渡戸稲造に洗礼を受けた人物である。  
 一八八九年7月末に、メンバーの一人、東ヶ崎菊松(孫のキヨシ・トガサキはJACL「全米日系市民協会」のパイオニア、教育者、ジャーナリスト、渡日してから『ジャパン・タイムズ』紙社長。国際基督教大学の初代理事長)、とハリス博士が聖書研究をしていた時、同席していた河辺貞吉の証言である。東ヶ崎は自らの罪を痛感し、一週間、断食をして祈っていたところ、聖霊が注がれ、大きな喜びに満たされる経験をした。そしてすべてのクリスチャンはこの約束の聖霊を受くべし、と叫んだ。後日、河辺も同様な聖霊体験をしている。在米日系キリスト教界最大の霊的覚醒運動、つまりリバイバルの発端であった。  
 この聖霊の火は瞬く間にサンフランシスコから近隣に燃え広がり、2年間で千名以上が救われ、伝道する資格の与えられた者は六百五十名といわれる。そして河辺は西海岸諸都市の巡回伝道を始め、次々と日本人教会を立ち上げてゆく。日本ホーリネス教団の立役者の一人、笹尾鉄三郎も、この時に救われ、河辺の下で訓練を受け、やがて帰国し、河辺と共に日本の霊的リーダーの一人となっている。私たちの北米ホーリネス教団の発起人(葛原定市は四代目牧師)、木田文治も、この時に救われている。私たちのルーツはこのリバイバルにある。  
 マルコは「時は満ちた。神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」(一・15)と宣言しているが、主の前に成すべきことは先ず、悔い改めである。霊的覚醒も、なま温くなりやすい私たちの信仰も、すべてはここから始まる。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

